

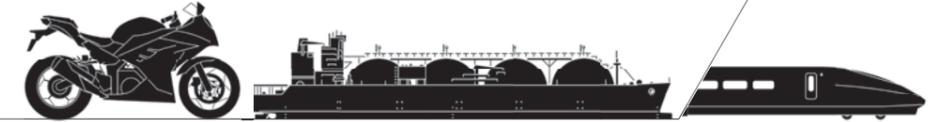
川崎重工グループでは、2017年度に、グループとして対処すべき社会課題を再確認し、事業を通じて創出する社会価値を明確にしました。同時に、貢献すべきSDGsの項目を決定し、「陸・海・空における安心・安全、クリーン、快適な移動・輸送手段の提供」「クリーンエネルギーの創出」「新興国を中心とした社会インフ

ラの充実」「自動化による高齢化・労働力不足への対応」という創出する社会価値のそれぞれについて2030年までに達成すべき非財務目標を定めました。達成状況を定期的に開示しながら、社会価値の最大化と持続的な成長を目指すとともに、SDGsの達成に貢献していきます。



陸・海・空における安心・安全、クリーン、快適な

移動・輸送手段の提供



船舶、鉄道車両、航空宇宙システム、モーターサイクルなどの輸送機器メーカーとして、グローバル化に伴う移動・輸送の活活化への対応を進め、環境リスクの低減を図ります。

船舶

2030年の目標

- LNG燃料船または水素燃料船の建造隻数:1隻(年間)

2017年度実績

- LNG燃料船:実用段階
- 水素燃料船:研究開発中

2030年の目指す姿

LNG燃料船、水素燃料船の建造を通じて、船舶から排出される窒素酸化物・硫黄酸化物、二酸化炭素を大幅に低減させる。

取り組みの概要

海の大気汚染防止に向けた、船舶からの窒素酸化物(NOx)および硫黄酸化物(SOx)の排出規制に対応するためにLNGを燃料とした船舶を開発しています。LNGを燃料とすることで、重油を使った場合に比べて、SOxを大幅に削減できるほか、二酸化炭素(CO2)も20%~30%削減できるため、地球温暖化防止にも貢献できます。LNG燃料船については、実用段階に入っていることに加え、究極のクリーンエネルギーである水素を燃料とした船舶の開発にも取り組んでいます。水素を燃料とした船舶は、CO2を全く排出せず運航することができます。



鉄道車両

2030年の目標

- 車両納入両数:1,000両

2017年度実績

- 車両納入両数:494両(別途コンテナ貨車:262両)

2030年の目指す姿

安全性、快適性、信頼性が高く、ライフサイクルコストにも優れ、省エネで環境負荷の小さい鉄道車両の製造を通じて、グローバルな輸送インフラの拡充に貢献する。

取り組みの概要

国内外の高速車両プロジェクトへ参画を進めるほか、国内、北米、アジアの既存市場への車両供給を継続しながら、アジア新興各国における新規鉄道インフラ整備への参画を推進していきます。また、センシングや画像解析、IoT技術を組み合わせた状態監視技術を深度化し、ライフサイクルコストに優れた鉄道システムの実現に寄与していきます。



航空宇宙システム

2030年の目標

- 環境に配慮した航空機、ヘリコプターおよびエンジンの提供と開発参画範囲の拡大

2017年度実績

- 787分担製造品:売上数141機
- BK117売上数:完成機3機 分担製造品78機
- 低燃費型エンジン Trent 1000 分担製造品生産 Trent XWB 分担製造品生産 PW1100G-JM 分担製造品生産

2030年の目指す姿

環境性能に優れ、高い安全性と信頼性を兼ね備えた航空輸送システムを提供する。

取り組みの概要

ボーイング787および777Xの開発、およびロールス・ロイス社向けTrentシリーズ、プラット&ホイットニーPW1100G-JM等の開発への参画により、低燃費型航空機、低燃費型エンジンを着実に提供するとともに、低騒音型ヘリコプターBK117の製造・販売に注力します。また、今後、環境に配慮した新規航空機およびエンジンの国際共同開発への参画を目指すことにより、環境改善に貢献していきます。



©Rolls-Royce plc

モーターサイクル

2030年の目標

- 協調型高度道路交通システム(C-ITS※)などの先進的なライダーサポート機能を有するモーターサイクル、および電動バイクやハイブリッドバイクなどのクリーンエネルギーで駆動するモーターサイクルの提供
- ※ C-ITS:Cooperative Intelligent Transport Systems

2017年度実績

開発中

2030年の目指す姿

「走る喜び・操る楽しさ」と先進的なライダーサポート機能を有するモデル、およびクリーンなモーターサイクルを開発・製造・販売する。

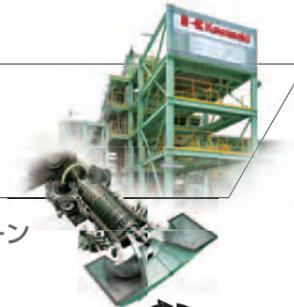
取り組みの概要

「Fun to Ride(走る喜び、操る楽しさ)」「Ease of Riding(乗り易さ)」「環境性能向上」を商品開発の基本理念とし、モーターサイクルの性能向上、ライダーサポート機能の充実、排ガス・騒音などの環境規制対応に取り組んでいます。C-ITS機能に関しては、二輪車業界が開発に向けて設立したコンソーシアム(CMC:Connected Motorcycle Consortium)に参画しており、同機能に対応したモーターサイクルの早期販売を目指しています。電動バイクやハイブリッドバイクなどクリーンエネルギーで駆動するモーターサイクルに関しては、将来展開に向けた試作機の製作と機能評価を行っていきます。





## クリーンエネルギーの創出



地球規模の環境リスクの低減に向け、CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーンの構築による、クリーンエネルギーの創出を目指します。

### 2030年の目標

- 水素エネルギー使用によるCO<sub>2</sub>削減量: 300万トン
- 水素輸送量: 年間22万5千トン

### 2017年度実績 実証試験中

### 2030年の目指す姿

水素基地・液化システム・運搬船・水素燃料のガスタービンなどの機器を提供し、液化水素輸送インフラのシステム・パッケージ・サプライヤーとして、水素社会の進展に貢献する。

### 取り組みの概要

オーストラリアの未利用資源褐炭や再生可能エネルギーからの水素製造および液化(つくる)に始まり、液化水素の陸上基地および船舶間の荷役、大量海上輸送(はこぶ)、液化水素の貯蔵(ためる)、水素の特性に最適化したガスタービン発電(つかう)に至るサプライチェーンの枢要技術の開発を協力企業と共に進めています。化石燃料からの水素製造時に発生するCO<sub>2</sub>についてはCCS(二酸化炭素の回収・貯留)を活用することで、製造から使用時までCO<sub>2</sub>の排出を抑制できるクリーンなエネルギー源として水素を活用できます。

当社等が構築する水素チェーンが実現すれば大量かつ安定なクリーンエネルギーの供給が実現するだけでなく、CO<sub>2</sub>の大幅な排出削減が可能となります。



## 自動化による高齢化・労働力不足への対応



先進国を中心とする高齢化・労働力不足の問題にロボット技術で応えます。

### 2030年の目標

- ロボット納入台数: 10万台

### 2017年度実績

- ロボット納入台数: 2万台

### 2030年の目指す姿

高齢化が進む先進国において、医療用ロボットの開発により、質の高い医療へのアクセスを容易にするとともに、ロボット技術を活用し、医薬品製造、介護医療、人体への負担が少ない治療法を開発する医療関係の皆様をサポートする。

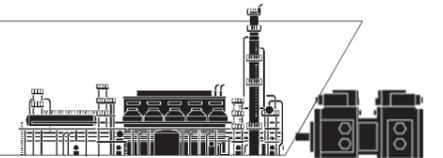
また、人協調型ロボットなどの開発・製造さらにその知能化により、先進国を中心とする労働力不足を補う。

### 取り組みの概要

医療用ロボットを来るべき高齢化社会を支える事業と位置付け、シスメックス(株)と合併で医療用ロボット事業会社である(株)メディカロイドを設立し、産業用ロボット技術を応用したアプライドロボットと手術支援ロボットを事業化ターゲットとして開発に取り組んでいます。また、双腕スカラロボット[duAro]を核として、ロボットの人との共存・協調を進め、ものづくりの現場の新たな自動化ニーズの開拓を進めています。



## 新興国を中心とした社会インフラの充実



産業用ガスタービンやごみ焼却設備、油圧機器・システムなどの提供により、環境リスクの低減と新興国を中心とする社会インフラの整備に貢献します。

## 油圧機器

### 2030年の目標

- 油圧機器生産・納入量: 100万個

### 2017年度実績

- 油圧機器生産・納入量: 59万個

### 2030年の目指す姿

当社の建設機械、農業機械、産業車両用の油圧機器・システムが世界標準となり、安定的に生産・供給を行うことで、社会インフラ整備に貢献する。

“ICT・IoT・AI”といった新技術と当社のロボット技術・油圧制御技術を融合し、新しい価値を創造する。人と地球環境にやさしい次世代建機の開発を強力にサポートし、新興国を中心とした社会インフラの充実に貢献する。



省エネルギー製品、水素対応製品、再生可能エネルギー対応製品等の開発・販売を推進し、地球環境の未来に貢献する。

### 取り組みの概要

世界的な油圧シヨベル需要の拡大に伴い、グローバルに生産能力を拡大中です。ICT/自動化/無人化といった次世代建機向け油圧システムの研究開発を推進しているほか、農業機械・産業車両分野への本格参入を目指し、戦略製品の開発・販売も開始しています。さらに、欧州自動車メーカー向けに高圧水素減圧弁の採用が決定し、一次量製品の生産を開始したことに続き、二次量製品も開発中です。また、省エネルギー・低騒音油圧ハイブリッドシステム“Eco-Servo”の累計販売台数が4,000台を達成し、ヒューマノイドロボット用の小型電油アクチュエータも開発しています。

## エネルギー・環境プラント

### 2030年の目標

- 世界最高効率・環境性能機種による、分散型電源市場でのシェア拡大
- 高効率・省エネルギーの発電設備・機器類、インフラ関連設備、環境関連設備のコンスタントな提供

### 2017年度実績

- 海外向け常用発電設備納入実績: 14台
- ごみ焼却設備納入実績: 2基

### 2030年の目指す姿

エネルギー・環境分野を中心に、高い製品開発力(製造技術を含む)とエンジニアリング能力を基盤とした技術・品質により地球環境保全に貢

献し、かつ顧客満足度の高い製品・サービスをグローバルに提供する、特色ある機器・システム・プラントメーカーとなる。

### 取り組みの概要

効率・環境性能で世界トップクラスのガスタービンや世界最高性能のガスエンジンなどの発電設備や省エネルギーで資源効率の高い機器類の提供を通じて経済成長と環境保全の両立を目指します。この姿の実現のため、コアハードを組み合わせてさらにソフト面のノウハウを織り込む取り組み、海外案件の対応強化、新たなソリューションの創出などに取り組んでいます。トンネル掘削機や低温貯槽設備を通じてインフラ整備の一翼を担うとともに、省エネルギーのごみ焼却施設や水処理施設、脱硫・脱硝装置などの納入を通じて都市の環境保全にも貢献していきます。



SDGsについては、上記で述べたほか、全事業を通じて



にも貢献していきます。(詳しくは本レポートの41ページ、および当社のWebサイト「CSR情報」をご覧ください。)